

58 由布院温泉郷を守っている治山ダム群

大分県（由布市）

男能濃松地区



由布岳北側斜面の大崩壊地



崩壊土砂の流出状況(平成10年)



男能濃松地区の全景(平成18年)



現在の男能濃松地区(土石が堆積)

佐土原地区



九州北部豪雨の被害状況(平成24年)



治山ダムによる土石等の捕捉状況①



治山ダムによる土石等の捕捉状況②



現在の復旧状況



○所在場所

大分県由布市湯布院町（由布岳周辺）

○解説

由布岳の山体は火山噴出物や溶岩等からなっており、温泉化作用、断層の影響による破碎風化や凍結融解作用による風化が著しく、急峻な地形と相まって荒廃が進んでいます。特に、男能濃松地区には、慶長元年（1596年）の大地震により発生したと言われている由布岳北側斜面の大崩壊地があり、大量の土石が生産され、下流域に流出していました。このため、大正2年から平成19年にかけて、渓間工及び導流堤等を設置し溪流の安定を図り、下流域の集落や大分自動車道等を山地災害から守っています。また、佐土原地区では、平成24年7月の九州北部豪雨により土石流が発生しましたが、治山ダムが土石及び流木を捕捉し、下流域への被害を最小限に止めるなど、治山ダムの機能が顕著に発揮されました。

○施設・工法の概要

渓間工 77基、導流堤、植栽工 ほか